

People in Shibushi

志布志の人々

「第一次産業体験都市計画」産業と空き家を海路で結ぶ」という政策を応募したきっかけは、仕事柄、リフォーム助成の情報など、官公庁のホームページをよく見ていたことです。そこで、内閣府地方創生推進室主催の地方創生☆政策アイデアコンテストを見つけたとき、「これだ」と思いました。私は、大阪に住んだ経験と、志布志に住んだ経験があるからこ



**地方創生☆政策アイデア
コンテスト2024
九州経済産業局長賞受賞**

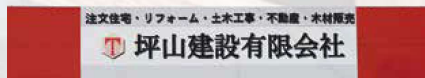
そ、それぞれの良さが分かっています。さんふらわあも乗ったことがあり、志布志と大阪の近さも知っている。志布志は食べ物も水も美味しい。これは志布志を離れたことで感じたことです。志布志のアピールポイントって本当に多いなあ。一方で、人口減少や少子高齢化、第一次産業の担い手不足、県全体で空き家が多いこと、志布志市の昼夜間人口比率が県内一高いことなど、課題の洗い出しも進めました。さまざまな資料を集め、地域経済分析システム（RESAS）を活用しながら政策提案をまとめていきました。

私自身、かつて人参農家でアルバイトをしたことがあり、新鮮で楽しかったことを覚えています。志布志には、農林業や漁業など数多くの産業があります。まち全体で産業体験都市になるポテンシャルがあると思っています。関西圏の学生など、空き家を改修した物件を拠点として受け入れ、志布志で産業体験できれば、学生たちは当然いい経験になるし、この地域の人たちも若者から学ぶことも多いと思うんです。この政策が実現すると、地域の産業がブラッシュアップされて、ワクワクするまちになると思います。一人で考え、まとめた政策なので、まだまだ未熟ですが、まちづくりに関心のある方々の力を結集して、少しでも実現できれば嬉しいです。まもなく始まる大阪万博も、さんふらわあを利用すれば、火はすぐ隣駅のような場所の話。このまちにとってもチャンスだと思えます。まだまだ志布志市は可能性のあるまち。これから私が暮らしてゆく大好きな故郷です。

Information

坪山 佑哉さん（坪山建設有限会社）

志布志市出身。29歳。鹿児島工業高等専門学校を卒業後、大阪で電気設備会社に就職。その後、建築業界への興味からリフォーム会社へ転職。令和元年、志布志市へUターンし、実家である坪山建設有限会社に勤務。趣味は旅行で、各地を訪れ、カフェも巡る。



▲受賞した政策アイデアを市長に紹介



12/8 港の緑地を活用し、にぎわい創出

志布志港の緑地を活用した官民連携イベント「しぶし肉フェス」が開催されました。会場では、BBQやマルシェ、音楽イベントなどが行われ、参加者は港ならではの風や景色とともに楽しんでいました。



12/8 地域のリーダー育成団体を表彰

ジュニア・リーダークラブ「JACOクラブ」がボランティアや交流活動が評価され、県教育委員会より表彰されました。現在23人が在籍し、この日もイベントの運営ボランティアに取り組みました。



12/13 地域伝統の紙すきを体験

伊崎田小学校の5・6年生が伝統の紙すきに挑戦しました。伊崎田和紙保存会の國重 賢一郎さんにコツを学び、6年生は自らの卒業証書、5年生はその他表彰に活用する和紙づくりに励んでいました。



12/12 災害への備えに 保存水を寄贈

株式会社霧島湧水（代表取締役 堀田 真吾氏）から、災害備蓄用ミネラルウォーター792箱（2L×6本入）を寄贈して頂きました。自然災害発生時など、万が一の備えとして活用させていただきます。



年末の光景



12/15 大きな門松を設置（通山小）

通山小学校で、PTA主催の門松づくりが行われ、児童と一緒に正門前に設置しました。通山校区コミュニティ協議会主催の餅つきも開催し、地域と学校が一体で、新年を迎える準備を行っていました。

12/14 美味しい餅ができました（泰野小）

泰野小学校の5・6年生が、地域住民と餅つきを行いました。5年生の谷口 璃依七さんは、「餅つきは簡単かと思っていたが、杵が重たくて難しかったです。」と話し、餅つき後は皆で丸餅を作っていました。